



④齊藤一郎さん(坂)「霧の中の操業」
⑤菅原徹さん(石岡市)「月夜に翼たく」

最優秀賞には、「帆引き船の部」で菅原徹さん(石岡市)、「霞ヶ浦の風景の部」で齊藤一郎さん(坂)が栄冠を手に入れました。

齊藤一郎さんは「このような賞をいただき大変うれしく思います。また、霞ヶ浦の帆引き船や漁師さんたちの漁風景など、後世に残していきたい魅力あるものだと感じています」と受賞の喜びを話してくれました。入賞作品は、市観光協会ホームページでご覧いただけます。



第14回霞ヶ浦帆引き船フォトコンテスト

栄冠を手にしたのは!?



霞ヶ浦帆引き船フォトコンテストは霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会の主催で行われており、今回で14回目の開催になります。応募作品は、市内はもとより県内、県外から霞ヶ浦に浮かぶ帆引き船の勇壮な姿や霞ヶ浦を被写体とした作品451点が応募され34点が入賞しました。

審査員講評

2001年から始まった帆引き船写真コンテスト、二つの絞られたテーマを長年続けられている写真コンテストでは数少ないものです。これには、霞ヶ浦に浮かぶ勇壮な姿を残そうと、行政、地元関係者、漁業関係者、帆引き船・帆引き網漁法保存会の方々の努力と支援の賜と理解しております。

今回も、上位に入賞された皆様は差のない作品群です。来年度は節目の15年目を迎えます。この帆引き船を遺産に残すべくすばらしい作品を期待しております。【立木寛彦】

今回も力作がそろい、どの作品も表彰にふさわしいものばかりであった。与えられたテーマは2つしかなく、自ずと評価では技術に加え作者の被写体に寄せる意図が求められたと言える。霞ヶ浦とそこに注ぐ陽の光や月光、風などの自然をいかに味方につけてテーマを浮き彫りにするか。霞ヶ浦と帆引き船のドラマが今回も四角い世界の中で展開された。【香掛博光】

夏から秋、初冬という季節、朝昼、月光の夜、そして天候によつて霞ヶ浦と帆引き船、湖岸の風景は様々な表情を見せます。毎年、多数の作品を目にしますが、特に今回は撮影の意図を明確にし、移ろいに富んだ瞬間を逃さず狙った力作が集まったと実感しました。【神崎公二】

市内の入賞者(敬称略)

- ◆ 最優秀賞 かつみがうら市長賞 齊藤一郎
- ◆ 優秀賞 佐賀征雄
- ◆ 読売新聞社賞 飯島清
- ◆ かつみがうら市観光協会会長賞 藤枝多美男
- ◆ 霞ヶ浦北浦水産加工業協同組合会長賞 飯田常男
- ◆ プリマム賞 藤井美代志、加瀬雅俊
- ◆ 水戸信用金庫賞 福田弘
- ◆ 入選 小松崎正義

» 写真で振り返る合併10年



霞ヶ浦中学校の入学式 [平成26年4月]

平成26年4月1日、南中学校と北中学校が統合し、かつみがうら市立霞ヶ浦中学校が開校しました。開校初年度となる平成26年度の新入生は145人。入学式にのぞんだ新入生は、緊張した面持ちのなか、希望に胸を膨らませ3年間の中学校生活の第一歩を踏み出しました[広報かつみがうらNo.109]。

» 市民学芸員雑誌記事

地方創生は、観光から

平成27年は、地方創生元年といわれ、地方経済の活性化が叫ばれています。地方創生は、まず、観光からと感じています。かつみがうら市には、多くの文化財がありますが、市民にあい知られていません。霞ヶ浦や筑波山系の自然、ナシやグリ、イチゴなどの果樹、レンコンやサツマイモなどの野菜、ワカサギや白魚、エビなど多くの水産物もあります。これらをコーディネートし、ストーリーをつけて「湖山の宝」として位置づけ、発信力を高め、観光ツールとして活用し、地域活性化の一助としたいと思います。市民学芸員の会では、「おもてなしの心」でさまざまなイベントを企画し、かつみがうら市の活性化に貢献したいと感じています(深井征一郎)。

▼投稿作品(俳句・短歌・川柳)を募集しています。4月6日までに情報広報課(霞ヶ浦庁舎)へお願いします

- 出島短歌会**
- 思い出のジャスミンの香にさそわれて遠まわりするたそがれの町
大晦日今年も暮れゆく西の空亡母の笑顔か真赤な夕日
水涸れし川面をわたる山羊のかげ照らしいだしぬきさらぎの月
クリスマスローズうつむき咲く庭で今度は出逢ふことになしようよ
三歳児濯ぎし毛布かわきまぢかすかな匂ひ手よりはなさず
- 投稿作品**
- 虎落皆借楽園を吹き抜ける顔郁香る賑わいを待つ
春日和より寒さ厳しき折々の手入れし閑も蓄を見せり
春雨に濡れてうつつ向き楚々と咲く辛夷眺めて一日過ぎ行く
うから遊き残生のごとく臘梅の花のどぼし香のうすれつつ
年輪の秘めしまかべの雛飾り
あら嬉し久し振りだ福春草
マラソンの王者ケニアの青年は喜び語る白き苗清し
「七つ鐘は櫻に鐘」唱っていたのを思い出して見ると「永遠の0」
つばみのまま挿して置きたいおや心
野に出て今年を採ろうか土筆・たんぽぽ・董・はこべら
- 櫻井清風
石塚清
沽野はつ子
的場登志子
扶美代
吉田正道
渡辺静江
菅谷味子
やまぐらいつむむ
高橋フミ
- 小室貞江
名倉親子
岡田恭子
浜田留子
飯島ヒロエ

文芸ひろば

詠歌の紹介

千代田俳句同好会

全屏風七段飾りの変り雛
蔵街をぶらぶら歩き雁帰る
蔵街の地図を片手に雛の家
色褪せて尚凜凜しかり明治雛
春の陽を梢すかして稚大樹
雨上がり梅の古木に露光る
人影の伸びゆく日向千大根
雛祭道を隔てて蔵と蔵

- 桜井筑娃
中島暉子
西多恵子
萩原初枝
福田妙子
山内勝昭
矢口三郎
大塚隼人